

協働できる学校図書館を めざして

東京学芸大学附属竹早小中学校司書
岡島玲子

東京学芸大学附属竹早小中学校

▶ 児童数	小学校	443名	中学校	477名
▶ 学級数	小学校	12クラス	中学校	12クラス
▶ 教員数	小学校	27名	中学校	33名
▶ 図書館の面積	<座席数>	閲覧席	15台	84席
	<床面積>	280m ²		
▶ 蔵書冊数	小学校	11,000冊	中学校	10000冊
▶ 雑誌	2誌			
▶ 新聞	2誌			

貸出数

▶ 小学校

• 中学校

年度	貸出冊数	一人あたりの平均	年間購入冊数
2007年度	4433冊	9.4冊	
2008年度	9214冊	19.7冊	
2009年度	20、059冊	42.7冊	574冊
2010年度			
2011年度			
2012年度	20, 091冊	42.1冊	460冊
2013年度	20, 359冊	45冊	512冊

年度	貸出冊数	一人あたりの平均	年間購入冊数
2007年度			
2008年度	1617冊	3.3冊	
2009年度	3126冊	6.3冊	
2010年度			
2011年度			
2012年度	5942冊	12.4冊	814冊
2013年度	5405冊	11.3冊	737冊

本校メディアセンターの特色

- ▶ 小中同じ図書館を使い、多様な蔵書を揃え、児童生徒の個人の読書の場として、また、教科の学びに活用している。
- ▶ 小学校において週一回図書的时间があり、司書によるよみきかせ、ブックトーク・自由読書を行っている。
- ▶ 読書ノートへの記録
- ▶ 図書新聞の作成
- ▶ 季節・行事・授業にかかわるテーマ展示
- ▶ 中学校は図書委員会あり、活発に活動している。
- ▶ 授業・教材研究資料等の収集、貸出
- ▶ 公共図書館・附属間連携貸出により、児童、教員のニーズに答える。

竹早小中学校の7年間の歩み

- ▶ 司書のいない学校から協働する学校図書館へ



9年間の学び

- ▶ 小学校では、利用指導をとおして、図鑑・百科事典・年鑑に使い方、資料の探し方をマスターします。
- ▶ 単元にあわせたブックトーク

例 大豆・とうもろこし・大きくなったら・ゴミ・漁業・手紙



2013年度図書館を使った主な学習（小学生）

1,2年生	オリエンテーション／「はたらくくるま」「日本の神話」「動物のことを調べよう」「小さいときのわたし」「昔話について」
3,4年生	オリエンテーション／「生き物図鑑を作ろう」「都道府県調べ」「世界の国」「町しらべで警察、消防」「ゴミ」「エコ」「四字熟語」「昔のくらし・遊び」 「水について」図鑑の使い方、索引の使いかた。参考文献の書き方。
5,6年生	オリエンテーション分類を試みよう／参考文献の書き方社会「米」「日本の食料・農業・水産業」「歴史新聞」・「坂本龍馬」「田中正造」「足利銅山について」「世界遺産について」卒業レポート「人体について」冊子作成。劇映画作成のためのアイデア探し
その他	たけのこタイム、竹早祭、個人テーマによる調べ学習（小学校）

2013年度図書館を使った主な学習（中学校）

中学1年生	オリエンテーション／世界の諸地域、日本の諸地域、校外学習の為の調べ学習（長野）古典の世界を味わう 『御伽草子』と絵本を読み比べ、プレゼンする。個人のテーマによる調べ学習
中学2年生	国語百人一首鑑賞の調べ学習／校外学習の為の調べ学習／職業調べ／明治維新・太平洋戦争の調べ学習 個人テーマによる調べ学習
中学3年生	校外学習の為の調べ学習／公民 基本的人権（死刑・平等権・在日外国人・環境権・勤労の権利・職業選択の権利・思想信教の自由・持続可能な社会）遠野物語リメイク 卒業研究

先生へのききどころ

- ▶ 授業のねらい
- ▶ 単元名や学習材名
- ▶ 兼好法師のものの見方や考え方をしり、自分の知識や経験と関連づけ感想をもち、発表する。
- ▶ ペア学習からグループ学習へ
- ▶ 指導案・実習するプリントを参考にし、現代語訳を中心に多様な資料収集を依頼される。

教員との「協働」

- ▶ 目標を共有
- ▶ 機会をみつけてコミュニケーション
- ▶ 生徒の図書館利用には、教員の影響力大である。
- ▶ 授業で先生が紹介した本やテーマを展示する。
- ▶ 先生の依頼に即対応する。

生徒や保護者と一緒に図書館づくり

- ▶ 図書委員会だけでなく、ボランティアとして、生徒・保護者が展示かざりつけ、本のカバーリングをしている。



今後の学校図書館のめざすものは

- ▶ 学校図書館を使った授業や教育活動を通して、生徒が生涯にわたって使える情報リテラシーを獲得できるように支援する。
- ▶ 学校図書館の機能が十分にいかされ、読むこと、調べること、自ら学ぶことを生き生きと高めていけるよう、全教科、職員と全体的な連携がとれ、学習指導に関われる体制になっていく必要がある。